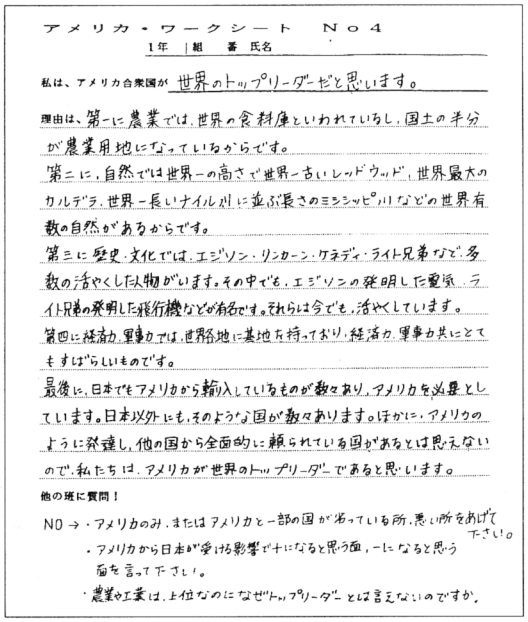
【場面５】「討論班」での活動，全体討論

◆　ワークシートNo.４
（討論班で作成した資料）


アメリカ・ワークシート　No４

1年　組　番　氏名

私は、アメリカ合衆国が 世界のトップリーダーだと思います。

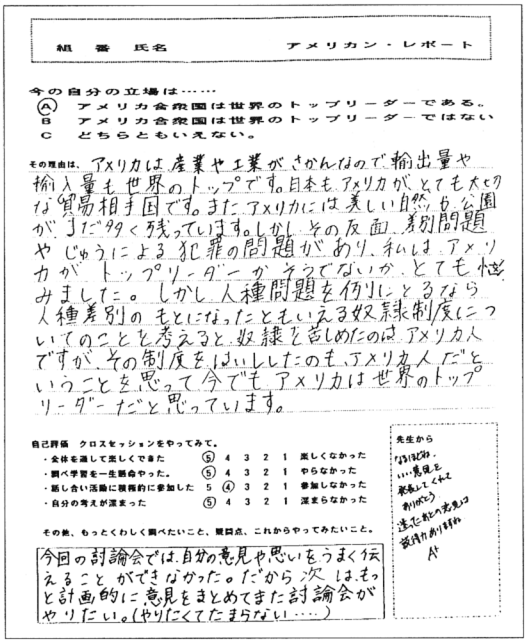
理由は、第一に農業では、世界の食料庫といわれているし、国土の半分が農業用地になっているからです。
第二に、自然では世界一の高さで世界一古いレッドウッド、世界最大のカルデラ、世界一長いナイル川に並ぶ長さのミシシッピ川などの世界有数の自然があるからです。
第三に歴史・文化では、エジソン・リンカーン・ケネディ・ライト兄弟など、多数の活やくした人物がいます。その中でも、エジソンの発明した電気、ライト兄弟の発明した飛行機などが有名です。それらは今でも、活やくしています。
第四に経済力、軍事力では、世界各地に基地を持っており、経済力、軍事力共にとてもすばらしいものです。
最後に、日本でもアメリカから輸入しているものが数々あり、アメリカを必要としています。日本以外にも、そのような国が数々あります。ほかに、アメリカのように発達し、他の国から全面的に頼られている国があるとは思えないので、私たちは、アメリカが世界のトップリーダーであると思います。

他の班に質問！

NO → ・アメリカのみ、またはアメリカと一部の国が劣っている所、悪い所をあげてください。
・アメリカから日本が受ける影響で十になると思う面、一になると思う面を言って下さい。
・農業や工業は、上位なのになぜトップリーダーとは言えないのですか。

【場面６】単元のまとめ

◆　ワークシートNo.５
（最終的な自分の考え，自己評価）


組　番　氏名　　アメリカン・レポート

今の自分の立場は……
Ⓐ　アメリカ合衆国は世界のトップリーダーである。
B　アメリカ合衆国は世界のトップリーダーではない
C　どちらともいえない。

その理由は、アメリカは産業や工業がさかんなので輸出量や輸入量も世界のトップです。日本もアメリカがとても大切な貿易相手国です。またアメリカには美しい自然も公園がたくさん残っています。しかしその反面、差別問題やじゅうによる犯罪の問題があり、私はアメリカがトップリーダーかそうでないかとても悩みました。しかし人種問題を例にとるなら人種差別のもとになったともいえる奴隷制度についてのことを考えると、奴隷を苦しめたのはアメリカ人ですが、その制度をはいしたのもアメリカ人だということを思って今でもアメリカは世界のトップリーダーだと思っています。

自己評価　クロスセッションをやってみて。
・全体を通して楽しくできた　⑤ 4 3 2 1　楽しくなかった
・調べ学習を一生懸命やった。　⑤ 4 3 2 1　やらなかった
・話し合い活動に積極的に参加した　5 ④ 3 2 1　参加しなかった
・自分の考えが深まった　⑤ 4 3 2 1　深まらなかった

その他、もっとくわしく調べたいこと、疑問点、これからやってみたいこと。

今回の討論会では自分の意見や思いをうまく伝えることができなかった。だから次はもっと計画的に意見をまとめてまた討論会がやりたい。（やりたくてたまらない…）

先生から
がんばれ。
いい意見を
発表してくれて
ありがとう
また私たちの考えの
変化があり楽しい
A+

このように立場が大きく動いた生徒，逆に一貫して動かなかった生徒など様々でしたが，自分の考えを友だちの考えと比較検討していく過程で，アメリカ合衆国の特色を多面的・多角的にとらえていきました。そして，生徒たちは，自分の考えを補ったり，深めたり，修正したりすることによって，新たな課題追究への意欲を高めていくことができました。この単元の学習で得た学び方や学ぶ意欲は，今後の学習に生かされていくものと考えます。

◆　名札マグネットを活用した全体討論

ディベートが，賛否二派に分かれて，相手の立論の根拠を崩して自己の主張の正当性を立証していくのに対して，この討論は，賛否に執着せず多様な考えを保障するとともに，柔軟に自分の考えをつくり変えていくところに特徴があります。また，手軽に実施できる利点もあります。討論では，主に軍事力，銃や人種差別の問題が論点になりました。生徒たちは，自分の考えを精一杯主張していました。

討論の最中にも,「今の自分の立場」を確認する時間を数回設定しました。立場の動く生徒も出てきて，討論も活発に展開されました。

ある生徒の考えの変容

① **単元の最初の立場**

肯　定　いろいろなことにおいて世界１位を占めているからトップリーダーでもおかしくない。

② **学習班での調査結果共有化の後の立場**

中　立　経済力・軍事力の発表まではトップリーダーだと思っていたが，アメリカのかかえる問題を聞いて，どちらとも言えないと思うようになった。

③ **全体討論後の最終的な立場**

否　定　○○君が言ったようにトップリーダーなんて別になくてもいいと思う。いくら強い国でも，その国にできることには限界がある。その国がよい方向に変わろうとするなら，まずはその国の国民がまとまるとともに，他の国と協力し合うことが大切であると思う。